

言語活動の充実を図る国語科指導の実際③

－読書活動の充実につなげる授業の工夫－

新学習指導要領において、読書の指導については、目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視して改善を図っている。また、日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶことができるように指導することも重視している。

読書に関する言語活動としては、様々な活動が考えられるが、ここでは比べ読みとブックトークについて説明し、それらを取り入れた実践を紹介する。

比べ読み

比べ読みとは、構成や展開等の観点を絞り、比較しながら、二つ以上の図書を読む活動である。

比べ読みは、子どもたちに多くの情報を提供し情報活用能力を育成するための有効な手段であるが、比較すべき文章は目的に応じて異なってくる。例としてあげると次のような文章が考えられる。なお、文章全体を比較させるか、必要な部分だけを比較させるかについても十分に検討する必要がある。

- ① 同じテーマでジャンルも同じ文章
- ② 同じテーマでジャンルの違う文章
- ③ テーマやジャンルが同じで意見が違う文章
- ④ テーマやジャンルは同じで書き方（文章構成など）が類似した、あるいは異なった文章
- ⑤ テーマやジャンルは違うが書き方（文章構成など）が類似した文章
- ⑥ 同じ作家の文章
- ⑦ テーマに関係なく書き方を参考にしたい文章

ブックトーク

ブックトークは、あるテーマを設定し、そのテーマに沿って前もって準備しておいた何冊かを順序よく紹介することである。読む行為と紹介する行為を同時に行えるので、教材文と関連付け、読みを深める学習とつなげることもできる。

【ブックトークの進め方】（例）

- 1 テーマを決める。
- 2 本を選ぶ。（紹介したいと思う冊数より多く選ぶ。）
- 3 構成を考える。（導入・展開・まとめを明確にする。）
- 4 聞き手とトークの流れを考えて本を選ぶ。（あらかじめ用意した本から絞り込む。不足している本はないか再考する。）
- 5 紹介の仕方を考え、細かいシナリオを作る。
- 6 効果的な資料紹介の工夫・準備をする。
- 7 練習する。

【実践例】日置市立飯牟礼小学校 松本浩輔教諭の実践を基に作成

1 単元名 読書の世界を広げよう（第5学年）

2 教材名 「千年の釘にいどむ」「本は友達」

3 単元の計画

(1) 単元の目標

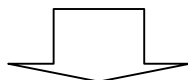
- ・ 様々な人たちの仕事を通した生き方について調べ、人物の生き方について自分の考えを明確にしようとしている。【関心・意欲・態度】

- ・ 筆者の表現の工夫を考えながら要旨を読み取ることができる。【読むこと】
- ・ 読書を通して、自分の考え方を広げたり深めたりすることができる。【読むこと】
- ・ 読んだ本について、自分の感じ方や考え方を明確にして感想をまとめることができる。【書くこと】
- ・ 読書発表会で自分が読んだ本について紹介することができる。【話すこと・聞くこと】

(2) 単元の計画

過程	主 な 学 習 活 動	教 師 の 働 き 掛 け
つかむ	1 「読書の世界を広げよう」という単元であることを知り、単元の見通しをもつ。 (1) 古代の建物と現代の建物の写真を見て、気付いたことについて話し合う。 (2) 「千年の釘にいどむ」の全文を読み、初発の感想をまとめる。	・ 題名から中心的内容を予想し、題名や一読後の疑問を基に、読みの課題を作らせる。 ・ 初発の感想は、「心に残ったこと」、「その文を選んだ理由」について短くまとめ、心に残った文を基に読んだ感想を100字以内にまとめさせる。
見通す	2 読みの課題に対する自分なりの読みをまとめる。 (1) 文章全体の構成をつかみ、読みの課題に対する自分なりの考えをまとめる。 (2) 学習計画を立てる。	・ 読み手に伝えるための工夫や、詳しく書いてあるところはどこで、それはどうしてなのかを考えながら、筆者が一番伝えなかったことについてまとめさせる。
調べる	3 学習計画に沿って、「千年の釘にいどむ」を読み取る。 (1) 千年の釘とは何かをとらえ、読みの視点をつかみ古代の釘の見事さを三つの側面からとらえる。 (2) 古代の釘作りにいどむ白鷹さんの工夫や努力、職人としての考え方や生き方について考える。	・ 図や写真と文章を照応させることによって、自分の考えを形成させる。 ・ 段落相互の関係を読み取り、古代の釘作りにいどむ努力や、釘作りにかける白鷹さんの思いを調べさせる。
深める	4 薬師寺の宮大工・西岡常一さんの話と白鷹さんの話を比べ読みしながら、考えを広げたり深めたりする。 (1) 西岡常一さんの話を読み、仕事を通した生き方についてまとめる。 (2) 仕事を通した生き方について、感想を発表し話し合う。 【エッセイ本文から抜粋】 樹と話ができる人がいる。薬師寺の宮大工・西岡常一さんもそのひとりだ。千三百年前の飛鳥時代の工法を守って、薬師寺の五重の塔・西塔の再建に成功した人である。 西岡さんは口ぐせのように言う。「塔を建てるという営みは『建築』ではなく『命の移しかえ』なんです。」 (中略) 単に便利な『モノ』をつくるのではなく、その底に『命の移しかえ』という心があつた時、テクノロジーの進歩と、地球の環境保護とが両立する道が開けることを教えてくれているのだ。	【龍村仁エッセイ「命の移しかえ」】 ・ 西岡さんや白鷹さんの話を読みながら、自分の知識や経験と関連付けて考えさせる。 ・ 付せん紙を活用して、比べ読みの教材から読み取ったことを短い文でまとめさせる。 ・ 仕事を通した生き方について二人の共通点があったのかを話し合い、友達の意見を聞いて、自分の考えを広げ、深めさせる。 同じテーマを扱ったジャンルの同じ文章を比べ読みさせることで、仕事を通した生き方について二人の共通点に注目し、自分の考えをもったり、話し合ったりしながら読みを深めていく学習を取り入れている。

まとめる・生かす	5 自分の読書傾向を振り返りながら、読書をし、ブックトークを開く。 (1) ブックトークの計画を立てる。 (2) 読書課題に沿って本を読む。 (3) ブックトークの発表原稿を書く。 (4) ブックトークの原稿をグループで交流し発表会の準備をする。 (5) ブックトークを行い、感想をまとめ学習を振り返る。 (6) 読書タイムを利用して、各学年でブックトークを行う。	・ 並行読書で読んできた本，比べ読みを受けて，読んだ本の2冊をブックトークで紹介することを確認させる。 ・ 付せん紙を利用して，心に残った文，その文を選んだ理由を書きながら読ませる。 ・ 書き出し→紹介する本の内容→テーマについて考えたことを中心にブックトークの原稿を400字以内にまとめさせる。 ・ グループで原稿を見せ合い，友達のよさを自分の原稿に生かすようにさせる。
----------	---	---



	【ブックトークまでの手順①】 単元のテーマに沿った本を学校司書補と連携して，学校図書館・市立図書館・県立図書館から集め，子どもたちに，自由に選ばせるようにする。紹介する本は，2冊以上選び，ブックトークへ向けて本を読み進める。
	【ブックトークまでの手順②】 本を読み進めていくときには，付せん紙を利用して，「心に残った文」，「その文を選んだ理由」を常にかきながら読み進めていくようにする。 自分の考えたことを付せん紙にかき込ませることで，原稿を書くときの構成に役立たせる。
	【ブックトークまでの手順③】 グループでの学び合いの活動で，友達の作品の良いところや改善したいところを話し合い，自分の考えを再考していく。
	【ブックトークまでの手順④】 ブックトークの発表では，①書き出し②紹介する本1 ③つなぎ④紹介する本2 ⑤結びの順で伝える。 全体での学び合いの後，友達の意見を参考にブックトーク原稿を書き直し，まとめをする。